



1905年ポール・ハリスにより誕生したロータリーの最初の社会奉仕はシカゴ市役所の屋外に公衆トイレを設置したことです。各クラブが地域社会のニーズに応じて、社会奉仕をしているのが現実の姿であり、ロータリーが存続している所以であろうと思います。従って、地域社会奉仕は各クラブが実施するものであり、地区はニーズに応じて支援する形になります。今年度は、次のようなプログラムを支援することになりました。

1. サルガド写真展

サルガド氏はポリオの写真展を開催したことで有名ですが、今回「アフリカ」をテーマに東京都写真美術館において、10月24日～12月13日開催されることになりました。

その赤裸々な描写はアフリカの人道問題をロータリアンが知る良い機会でもあり、久邇ガバナー主導の下に第2750地区が後援することになり、地域社会奉仕委員会が窓口となり、皆様をお願い申し上げた次第です。

その結果一般293枚、シニア31枚のご協力を戴き、誠に有難うございました。

2. ロータリー合唱団2750の歌の慰問

東京世田谷RCの三富純一会員の経営する認知症老人のためのグループホーム「ゆりの花」が横須賀の衣笠にあり、コーラスグループ10数名で11月14日に慰問することになり、支援することになりました。当日は30分ずつ3施設を訪問しました。東京世田谷RCの別紙氏によるドラエモンのお土産と解説があり、共に日本の童謡や世界の民謡を合唱し、老人たちの目が生き生きと輝き、中には涙ぐむもの、歌えないけど大声を出すものなど感涙させられました。人の心を動かす音楽の魅力を感じ、歌による社会奉仕の意義を感じた半日でした。



ロータリー合唱団2750 グループホーム慰問

3. 東京調布むらさきRCの野川清掃への支援

昨年に引き続き、春には桜や菜の花が咲き乱れ、水鳥や魚も棲息する地域住民の憩いの場でもある野川を清掃することになり、今年は東京国分寺RC、東京たまがわRC、東京調布RCの各クラブも参加して実施され、多量のゴミを収集し環境保全の重要性を再認識させられました。野川は国分寺を起点とし、世田谷まで流れている川で、今回は大沢橋から谷戸橋までを清掃しました。



野川の清掃

4. アンケート調査

全クラブにアンケート調査を実施し、62.2%の回答を得ました。RIの提唱する奉仕の機会に関する項目を実施されているクラブは86.3%であり、13.7%のクラブは独自の項目を実施しています。単独実施62.7%、協同実施21.6%であり、単年度25.5%、継続58.8%、協同で行う意思54.9%でありました。全クラブに結果を報告してあります。

5. 日野原重明先生の講演会

東京銀座新RCがホストとなり、東京世田谷RC、東京調布RC、東京中央RC、東京武蔵府中RC、東京青山RC、東京調布むらさきRCがコ・ホストとなり、平成22年4月16日午後1時から銀座ブロッサム中央会館で日野原先生の講演会を実施します。演題は「長生きの秘訣 — メタボをなくそう」で、そのあとロータリー合唱団2750、日本橋RCコーラス同好会、西RCさつき会のコーラスを予定しております。この講演会はポリオチャリティイベントとし、支援することになりました。

